

今回の訪問リハビリテーション研修会は、2月19日にシンポジウムと特別講演の二本立てで企画し、3県士会より80名弱の参加者がありました。

今回は、『地域包括ケアシステムにおける訪問リハビリテーションに期待すること』をテーマに掲げ、シンポジウムは県医師会理事の吉本和浩先生（社会福祉法人絃徳会理事長）と行政から有元由紀先生（鹿児島県介護福祉課医療介護連携推進係長）、また特別講演は松井一人先生（訪問リハビリテーション振興財団事務局・全国訪問リハビリテーション振興会委員等）の3名にご講演いただきました。

シンポジウムでは、吉本和浩先生より、訪問リハビリテーションの可能性を高める手段として、SWOT分析（リハビリ SWOT 分析）を用いることの提案や、地域の医師やケアマネジャーとの密接な連携がより良い支援に繋がるといった事例を交えたお話がありました。また有元由紀先生からは、鹿児島県の高齢者を巡る現状と課題や、これからの介護予防の考え方、地域の中でのリハビリテーション専門職に求められることなどのお話がありました。

松井一人先生の講演では、訪問リハビリテーションにおける現状と課題や、地域包括ケアシステムにおけるセラピストの役割について、様々なデータや統計、介護報酬や診療報酬の改訂内容を元に分かりやすくお話いただきました。

訪問リハビリテーションが、これからの地域包括ケアシステムの中で大切なサービスであることは、3名のお話で一致していました。私たちは訪問リハビリテーションを、バランス良く、より効果的に地域や利用者・家族に提供できるように努めていく必要があるといった思いをより強くした、学び多い良い研修会でした。

